

【A年】

大斎節第四主日

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちの内に生き、わたしたちが主の内に生きるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はサムエル記上第十六章一節から」

1 主はサムエルに言われた。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出かけなさい。あなたをベツ

レヘムのエツサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」2 サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましようか。サウルが聞けばわたしを殺すでしょう。」主は言われた。「若い雌牛を引いて行き、『主にいけにえをささげるために来ました』と言い、3 いけにえをささげるときになったら、エツサイを招きなさい。なすべきことは、そのときわたしが告げる。あなたは、わたしがそれと告げる者に油を注ぎなさい。」4 サムエルは主が命じられたとおりにした。彼がベツレヘムに着くと、町の長老は不安げに出迎えて、尋ねた。「おいでくださいしたのは、平和なことのためでしょうか。」5 「平和なことです。主にいけにえをささげに来ました。身を清めて、いけにえの会食と一緒に来てください。」

サムエルはエツサイとその息子たちに身を清めさせ、いけにえの会食に彼らを招いた。6 彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。7 しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見えない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」8 エツサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」9 エツサイは次に、シヤンマを通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」10 エツサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」11 サム

エルはエツサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」
「末の子が残っています、今、羊の番をしています」と
エツサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼
を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、
食卓には着きません。」12 エツサイは人をやって、その子を連
れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派
であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。こ
れがその人だ。」13 サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟
たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しく
ダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二三編

- 1 主はわたしの牧者＝わたしは乏しいことがない
- 2 神はわたしを緑の牧場に伏させ＝憩いの水辺に伴わ
れる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ＝ 名名のゆえにわたし
を正しい道に導かれる

4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れな
い＝ あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖
はわたしを導く

5 あなたは敵の見ている前でわたしのために食卓を整え
＝ わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされ
る

6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い
＝ わたしは永遠に主の家に住む

使徒書

朗読者 「使徒書はエフェソの信徒への手紙第五章八節か
ら」

8 あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれ
て、光となっています。光の子として歩みなさい。9 光
から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。――
10 何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。11 実を結ばない暗闇
の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出さなさい。
12 彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしい
ことなのです。13 しかし、すべてのものは光にさらされて、明
らかにされます。14 明らかにされるものはみな、光となるの
です。それで、こう言われています。

「眠りにについている者、起きよ。」

死者ししやの中から立ち上たがれ。
そうすれば、キリストはあなたを照てらされる。」

朗読者 「使徒書しとしよを終わおります。」

一同立いっとうたつつ。
ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主しゅは皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第九章一節以下に記された主

イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。2 弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」3 イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。4 わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日の

あるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。5 わたしは、世にいる間、世の光である。」6 こう言つてから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。7 そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行つて洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行つて洗い、目が見えるようになって、帰つて来た。8 近所の人々や、彼が物乞いであつたのを前に見ていた人々が、「これは、座つて物乞いをしていた人ではないか」と言つた。9 「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそのようなです」と言つた。10 そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言つたと、11 彼は答えた。「イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、『シロアムに行つて洗いなさい』と言われました。そこで、行つて洗つたら、見えるようになったのです。」12 人々が「その人はどこにいるのか」と言つると、彼は「知りません」と言つた。13 人々は、前に盲人であつた人をファリサイ派の人々のところへ連れて行つた。

28 そこで、彼らはのしつて言つた。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。29 我々は、神がモーセに語られたことは知つているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」30 彼は答えて言つた。「あの方がどこから来たか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。31 神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しか

し、神をあがめ、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。32生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。33あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならないかっただけです。34彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。

35イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会おうと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。36彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」37イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」38彼が、「主よ、信じます」と言っ、ひざまずいた。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」